2025年8月10日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

 神様の「宝探し」

［申命記7章6～13節］

 あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。

あなたは知らねばならない。あなたの神、主が神であり、信頼すべき神であることを。この方は、御自分を愛し、その戒めを守る者には千代にわたって契約を守り、慈しみを注がれるが、御自分を否む者にはめいめいに報いて滅ぼされる。主は、御自分を否む者には、ためらうことなくめいめいに報いられる。あなたは、今日わたしが、「行え」と命じた戒めと掟と法を守らねばならない。あなたたちがこれらの法に聞き従い、それを忠実に守るならば、あなたの神、主は先祖に誓われた契約を守り、慈しみを注いで、あなたを愛し、祝福し、数を増やしてくださる。主は、あなたに与えると先祖に誓われた土地で、あなたの身から生まれる子と、土地の実り、すなわち穀物、新しいぶどう酒、オリーブ油など、それに牛の子や羊の子を祝福してくださる。

[1]　「爆弾」と人間

　先週水曜日8/6は、広島への原爆投下の日、また昨日8/9は長崎への原爆投下の日でした。80年前というのが、随分昔と言う気持ちがするのと、1年がこんなに早いと、80年と言うのも意外と短いなぁと、ちょっと不思議な気持ちになります。（皆さんはどう思われるでしょうか？）

　けれども、「爆弾」というのは、それが原子力であろうとなかろうと、そうではない空襲であろうと、とんでもなく冷たい暴力のように思えてなりません。では、「温かい暴力」というものがあるのかと言われたら困ってしまいますけれども、爆弾というものは問答無用であり、「言葉」というものはありませんよね。「言葉」の喧嘩だったら、まだ「やりとり」があります。そして、そのやりとりの中で状況が変化していくことも十分ありますが、爆弾というものは、ただ目標目がけて発射されたり、落下させたりするだけです。自分は傷つきません。一瞬の決断で、後はその破壊力に従って、人や土地や住まいを戻らないものにします。

「爆弾」そのものに「人格」はありませんね。だからこそ恐いと思います。その「人格なき」モノを操るのは、「人格ある」者（人間）なのですから。結局問われるのは、人間です。人間の心です。

[2] あなたは神様の「宝の民」

そういうことに思いを馳せ、人間の弱さや罪深さを思うと、これから先のことを考えてもどこか絶望的になってしまうところもあるのですけれども、絶望的になるということは信仰的なことではないと思います。

そのような私たち人間に対して、神様は、驚くべき言葉を語ってくれていると思います。申命記7章からの御言葉です。この「申命記」と言うのは、イスラエルの民の約40年間にもわたる旅の終わり、カナンの地に入ろうとする際に、新しい世代になった彼らに、モーセが主なる神様から与り語った言葉であり、またモーセの遺言とも言える言葉集（「申命」（重ねて命じる）ということ）です。最後の章を除いては、ほぼすべてがモーセの説教と言う形を取っています。

申命記7章6～8節で、このような素晴らしい言葉をモーセはイスラエルの民に語りました。―「あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。」

神様は、イスラエルの民を、いえ、私たち人間に対してと言って良いと思います、「神様は、あなたを御自分の宝の民とされた」とおっしゃっているのです。「宝」です。ということは神様は、私たちのことを高く‟評価”している、ということなのでしょうか？いえ、「評価」ということではないと思います。もし「評価」ということになれば、私たちはゼロ点です。いや、神様のことなど無視し、背を向けているということで言えば、マイナス点でしょう。しかし、その私たち人間のことを主は「宝」だとおっしゃるのですね。

神様が、私たちのことを「宝」だと言われる時、そこに何があるかと言えば、「言葉」があるのです。「語る」そして「聴く」という「関係」があります。ちょっとさかのぼるのですが、申命記4章5節以下に、このようなことをモーセは語っています。―「見よ、わたしがわたしの神、主から命じられたとおり、あなたたちに掟と法を教えたのは、あなたたちがこれから入って行って得る土地でそれを行うためである。あなたたちはそれを忠実に守りなさい。そうすれば、諸国の民にあなたたちの知恵と良識が示され、彼らがこれらすべての掟を聞くとき、「この大いなる国民は確かに知恵があり、賢明な民である」と言うであろう。いつ呼び求めても、近くにおられる我々の神、主のような神を持つ大いなる国民がどこにあるだろうか。」

この言葉でもわかるように、私たちが「大いなる国民」とか「賢明な民」となる、ということは、それは、主が私たちと共におられ、私たちはその主の言葉を聴いて生きようとするからなのです。そうでなければ、私たち人間はどこまでも「うなじかたき民（頑なな民）」であり、自分さえよければ、他者をおとしめる民、ひいては他者を殺める者であると言う現実は払拭出来ないと思います。

[3]　「嫌い探し」をする人間と、その人間のために主イエスを送られた神様

週報の巻頭言にも書かせて頂いたのですが、私が最近よく聞くようになった、若者に超人気になっている**「Mrs. GREEN APPLE」**（略称でよく「ミセス」と言われています。男三人です）というバンドがありますが、そのリーダーの大森元貴さんが、その活動の初期に作詞作曲した曲に『我逢人（がほうじん）』という曲があります。このタイトルは禅宗の道元が「我、ひとと会うなり。それこそが尊いこと」と言ったことから取ったらしいのですが、大森元貴さんが17才位の時の作品だと聞いて驚きましたが、とてもいい曲なんです。こんな詩があります。

**「嫌いになった人は全部少しの仕草でもダメになっちゃう。気づけば嫌い探しです。そんな私の憂いを綺麗に洗ってください」**

いきなり「嫌いになった人は」と歌い始めるんですね。斬新です。自分の内側を見ることから逃げていません。そして「気づけば、少しの仕草でも気になり、いつしかその人の嫌い探しをしている自分がいる」と言うのですね。あ、そういうことあるなぁ、と思います。…何て言うんでしょう。私は、人間の内側には、「人を嫌いになるエネルギー」と「人を好きになるエネルギー」の両方があると思うのですが、時に私たちは、前者の「人を嫌いになるエネルギー」の方が、何か賢いように思えてしまうことがあるのではないかと思います。「批評・批判」できる自分と言うか、自分を棚に上げ、他者の「嫌い探し」をしてしまう。そこにはどこか暗い快感もあり、私たち、皆それと無関係ではないでしょう。私たち、身近な所で、結構人を心の中で殺めてはいないでしょうか？…それに対して、「好き」という思いは、そのまま素直に出すと、あまりにも幼稚に思えてしまうということもあるかもしれませんね。ホントはそんなことはないと思うのですけれども、人間は、「闇」の方に、より魅力を感じるということがあるのだと思います。私自身、そういうものを抱えている所があると思っています。

けれども、今日の聖書の言葉です。「あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。」―あなたは神様の「宝」であるというのです。神様はどんなことがあってもあなたのことを「宝」として手放したくないのです。神様は私たち人間の中の「嫌い探し」をされません。むしろ「宝探し」をされます。私たちのことを「評価」するのではなく、「好きだ！」と抱きとめて下さるのです。7:7では「主が心ひかれて」ともありますが、他の訳では「恋焦がれて」となっています）。「好き」というエネルギーは、理屈じゃありませんね。それは単純で愚直なもののようにも見えるかもしれませんが、そこには自分を動かす「熱」があります。「好き」であれば、その人のことで冷静沈着ではいられなくなることがあると思います。（皆さん、青春時代を思い出してみて下さい）。そうです、神様も「好き」という感情、あなたは私の宝なのだからという思いが頂点に達して、神様は私たちに主イエス・キリストを送って下さいました。この主を見る時に、私たちは自分がどれほど「宝」とされていることが分かるのです。

先ほどの『我逢人』の歌ですが、こんなことも歌っています。

**「貴方はその傷を癒してくれる人といつか出会って貴方の優しさで救われるような世界で在ってほしいな……人は、人は笑顔であってほしいな」。**

 **…**ここに、曲を作った大森さんの真摯な祈りのようなものがあるように思いましたが、ここには誰かと心通じ合わせて生きることの尊さが言われていますけれども、今日の申命記の言葉、まず神様が私たちのことを「宝」と捉えていて下さっていること、ここに「平和」の源があるように私は思いました。主イエスを十字架に送って下さるほどに神様は私たちと繋がっていたいのです！押しつけがましい在り方でなく、本当に笑顔が生まれる命を、生き方を、私たちに与えて下さっているのだと思います。闇の力・暗さの中に引きずり込もうとするに負けそうになる私たちですけれども、だからこそ、インマヌエルである主が私たちと共におられます。この方の愛と支えの中に、身近な者たちと共に生きて行きましょう。お祈り致します。

神様、平和を祈る礼拝の中で、何よりもあなたご自身が私たちあなたに逆らう者を、「わたしの宝の民だ」と言って下さる驚くべき恵みを感謝致します。その意味を、深く受け止めさせて下さい。ただ単純に、私たちのことを愛しているとおっしゃって下さるあなたに、素直に「はい。わたしもあなたに聞きながら生きて行きます」と言える幸いな関りをこれからも与え続けて下さい。

　今この時、愚かな戦いが止みません。裁き合いをする私たちをお許しください。あなたに立ち帰る中で、まことの平和の道を選択できますように。故無く傷ついている者、苦しんでいる者たちをお救い下さい。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。